

生きているもの神い かみ

毎日まいにちの生活せいかつの中で、どんな時ときに、神さまかみの働きはたらを感じかん

じるか、思いおもついたことをつぎの空白くうはくに書いてくださかい。

生きているもの神い かみ

出エジプト記しゅつ エジプト記3章しやうで、モーセはイスラエルの民たみを

エジプトから連れ出すつ だために遣つかわされますが、どうし

ても不安ふあんを感じかんます。その時とき、神さまかみは言いわれます。

「わたしは必ずあなたと共にともにいる」。モーセはさらに

神さまかみの名なを問といますが、神さまかみは「わたしはある。

わたしはあるという者ものだ」と答こたえます。

ここから明らかな事は、神さまかみがどんな所ところでも、

どんな時ときにも私わたしたちと共にともにいて下さるくだという事ことです。

神さまかみの働はたらきは制限せいげんされないので。どんな時代じだいに

生きる人間にんげんにとっても、神さまかみはなくてはならない方かた

なのです。

聖書せいしょを讀よんでみると、神かみさまについて説明せつめいしていな

い事ことに氣きがつきます。神かみさまの姿すがたは歴史れきしの中なか

出来事できごとを通して私わたしたちに示しめされています。

私わたしたちは死しんだ後あとで永遠えいえんのいのちにあずかるので

はありません。すでに永遠えいえんのいのちを受けているので

す。死しんだ後あとの事ことについて心配しんぱいする事ことよりも、今いまどう

生きるかを真劍しんけんに考かんがえなければなりません。永遠えいえんの

いのちにあずかるものとして、ふさわしい行動こうどうが

要求ようきゆうされます。

神かみさまの働はたらきは歴史れきしの中なかに生いきる私わたしたちによつ

て表あらわされます。神かみさまが死しんだ者しゃの神かみさまではなく、
生いきている者ものの神かみさまである事ことをあかす役割やくわりが私わたし
ちに与あたえられているのです。

